

2018年度 法科大学院

第2期入学試験問題

1 時限

憲法

(論文式)

試験時間 60 分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[憲法]

つぎの文章を読んで、設問に答えなさい。

A市立工業高等専門学校（以下「A高等専門学校」という。）では、保健体育が全学年の必修科目とされ、第1学年の体育科目の授業の種目として剣道が採用されていた。20××年4月にA高等専門学校に入学したXは、自らが信仰する宗教の教義に従い、格技である剣道の実技に参加することは自己の宗教的信条と根本的に相いれないとの信念をもって、剣道の授業が開始される前に、体育担当教員に対し、宗教上の理由で剣道実技に参加することができないことを説明し、レポート提出等の代替措置を認めて欲しい旨申し入れた。これに対し、A高等専門学校校長Yは、体育担当教員らと協議をし、Xに対して剣道実技に代わる代替措置を採らないことを決めた。

Xは、同年4月末ころから開始された剣道の授業では、服装を替え、サーキットトレーニング、講義、準備体操には参加したが、剣道実技には参加せず、その間、道場の隅で正座をし、レポートを作成するために授業の内容を記録していた。Xは、授業の後、同記録に基づきレポートを作成して、体育担当教員に提出しようとしたが、その受領を拒否された。その結果、Xは、剣道実技につき満点35点中2.5点の評価を受け、他の体育種目の評価を加えても同校の「学業成績評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程」（以下「進級等規程」という。）で必要とされた点数に達しなかったため、体育科目につき不認定となった。Yは、進級等規程に基づき、Xを第2学年に進級させない旨の原級留置処分をした。

翌年度の剣道実技の授業についても、Xの態度は前年度と同様であり、学校の対応も同様であったため、結局Xは2年続けて原級留置処分を受けた。A高等専門学校の学則及び退学に関する内規では、校長は、連続して2回進級することができなかった学生に対し、退学を命ずることができることとされている。Xは、剣道以外の体育種目の受講に特に不熱心ではなく、また、体育以外の成績は優秀であり、授業態度も真しなものであったが、Yは、2回連続して原級に留め置かれたXに対し、学則に定める退学事由である「学力劣等で成業の見込みがないと認められる者」に該当するとの判断の下に、退学処分を告知した。

Xは、本件原級留置処分及び退学処分は違憲・違法であるとして、処分の取消しを求めて出訴した。

設問

Xの立場にたって、本件取消訴訟において、どのような憲法上の主張ができるか述べなさい。

（解答は全て解答用紙に記入すること）